

日本フィル「被災地に音楽を」

訪問コンサート レポート 第55号

東日本大震災の被災地支援活動は、2011年4月からはじまり、2024年1月末で通算342回となりました。



訪問日・訪問地 岩手県陸前高田市

2024年1月28日(日)

気仙小学校／米崎地区コミュニティセンター

訪問メンバー

ヴァイオリン 木野 雅之／佐藤 駿一郎

ヴィオラ 小中澤 基道

チェロ 石崎 美雨

共演

けんか七夕太鼓(気仙小学校)

2024 年最初の「被災地に音楽を」の活動として、私たちは岩手県、市の協力を得て陸前高田市の「気仙小学校」「米崎地区コミュニティセンター」の 2 か所を訪問しました。

市内 2 か所で弦楽四重奏の演奏会を行い、気仙小学校では 2021 年に東北の夢プロジェクト in 岩手に出演した「けんか七夕太鼓」の子どもたちと共に演しました。この取り組みは、今後数年にわたる陸前高田市訪問の最初の取り組みとして計画・実行されました。



↑ 気仙小学校での演奏会の様子



陸前高田市は津波により甚大な被害を受けた地域であり、県内で唯一の津波伝承館が作られています。震災後、海岸には高い防潮堤が築かれ、三陸海岸の中で最大のなだらかな平野部は嵩上げが行われましたが、広範囲にわたって今も住居や商店が見られず、震災の被害の大きさを実感するような景色が広がっています。震災から 13 年を迎える現在も人口減少が続いていること、内陸からの交通手段は鉄道線路が合った道が舗装されて走るバス(BRT)があるのみです。

震災後、「奇跡の一本松ホール」という素晴らしいコンサート会場が作られ、多くの慰問コンサートが行われましたが、原点に立ち返り、地域の方々の生活圏を訪問する主旨で集会所及び学校でのコンサートを行うことになりました。

気仙小学校は震災後に高台に再建され、中でも子どもたちの太鼓練習用に作られた「風のホール」は独特な屋根を持ち、音響的にも工夫がされています。6 年生の 11 名が披露してくれた太鼓は勇壮で迫力があり、感動的なものでした。



子どもたちによる「けんか七夕太鼓」の様子

日本フィルの演奏は、陸前高田市にゆかりのある木野雅之のソロを交えたクラシック・演歌・民謡で好評を博し、いずれの会場にも多くの地域住民が溢れ、演奏と共に歌い、手拍子し、大変明るい雰囲気で音楽をお楽しみ頂きました。

来年度以降も、陸前高田市訪問を行う予定です。



◆これまでの陸前高田訪問記録

2011年	11月21日	陸前高田第一中学校
2013年	11月15日	朝日のあたる家
	11月16日	陸前高田第一中学校、高田東中学校
	11月17日	陸前高田高校
2018年	9月9日	陸前高田第一中学校